

前回（第２回）有識者会議の 指摘事項の説明

前回（第2回）懇談会の指摘事項について

	主なご意見・ご質問	対応案	資料
①	富山県内で最初に多自然型工法が採用されたのは頭川周辺の小矢部川だったが、それを取り上げる必要はないか？	小矢部川における多自然型川づくりについては手元に資料がないため次回整理して説明したい。	1
②	河口土砂の掘削について、平成14年度以前はどの程度掘削しているのか？掘削後の土砂堆積は平常的なものなのか、それとも大きな出水が原因でH18年に土砂が堆積してしまったのか？	手元に資料がないため、後日データを示したい。	2

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 当初の小矢部川の多自然（型）川づくり

富山県内の直轄河川で、最初に多自然（型）川づくりが実施されたのは、小矢部川であった。

多自然（型）川づくりを開始した施工年度

- ・常願寺川 : 平成12年度～
- ・神通川 : 平成6年度～
- ・庄川 : 平成7年度～
- ・小矢部川 : 平成2年度～



小矢部川における多自然（型）川づくり当初の施工箇所

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 長慶寺地区（平成2年度施工）の概要

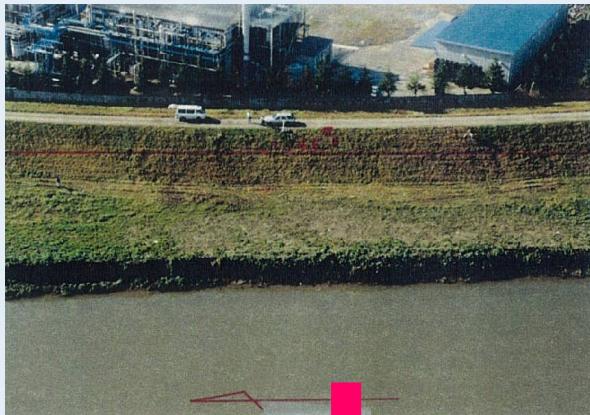
- ・目的 : 魚類の生息に配慮。
- ・施工内容 : 護岸前面（水中部）に魚巢ブロックを配置した。



長慶寺地区 横断図

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

- 長慶寺地区（平成2年度施工）の施工後の変化
 - ・ 魚巣ブロック前面に土砂が堆積した。
- ⇒（評価）魚巣ブロックの機能を果たしていない。



施工前



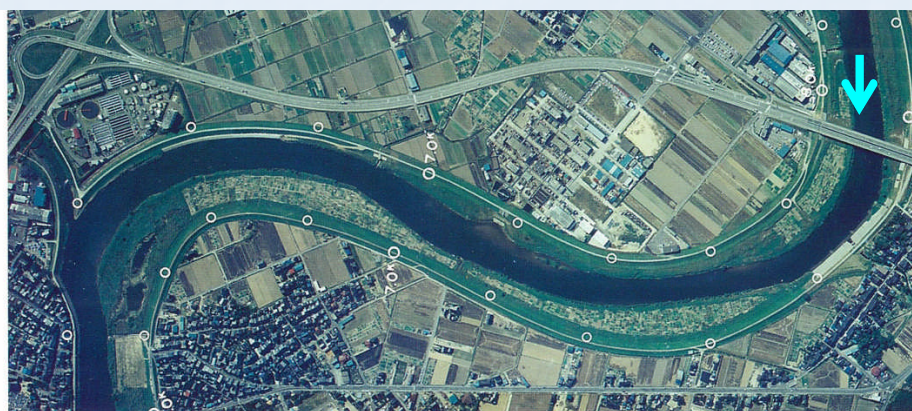
施工直後



施工後

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 長慶寺地区（平成2年度施工）の航空写真の経年変化



昭和57年（1982）

施工前



平成10年（1998）

施工後8年



平成3年（1991）

施工後1年



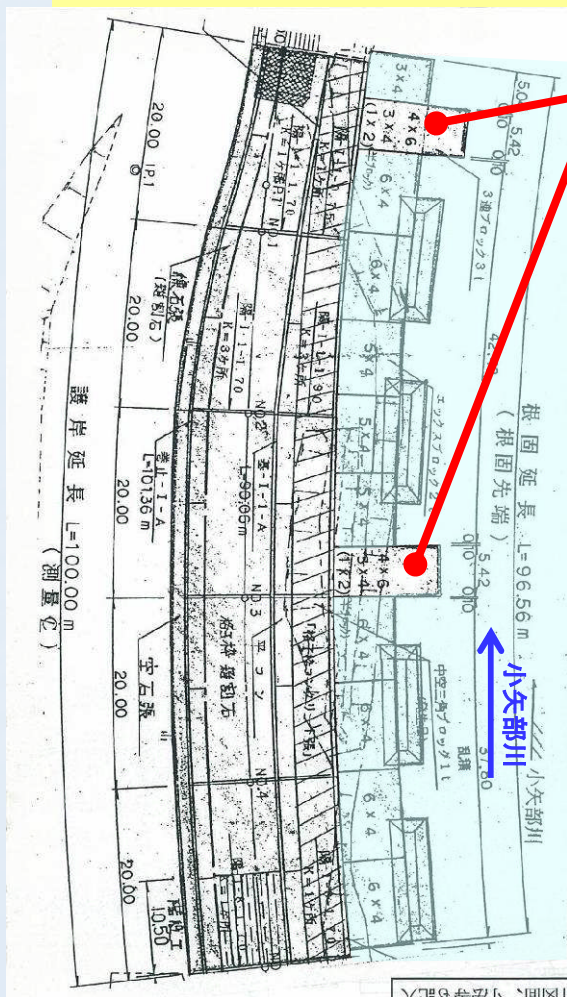
平成17年（2005）

施工後15年

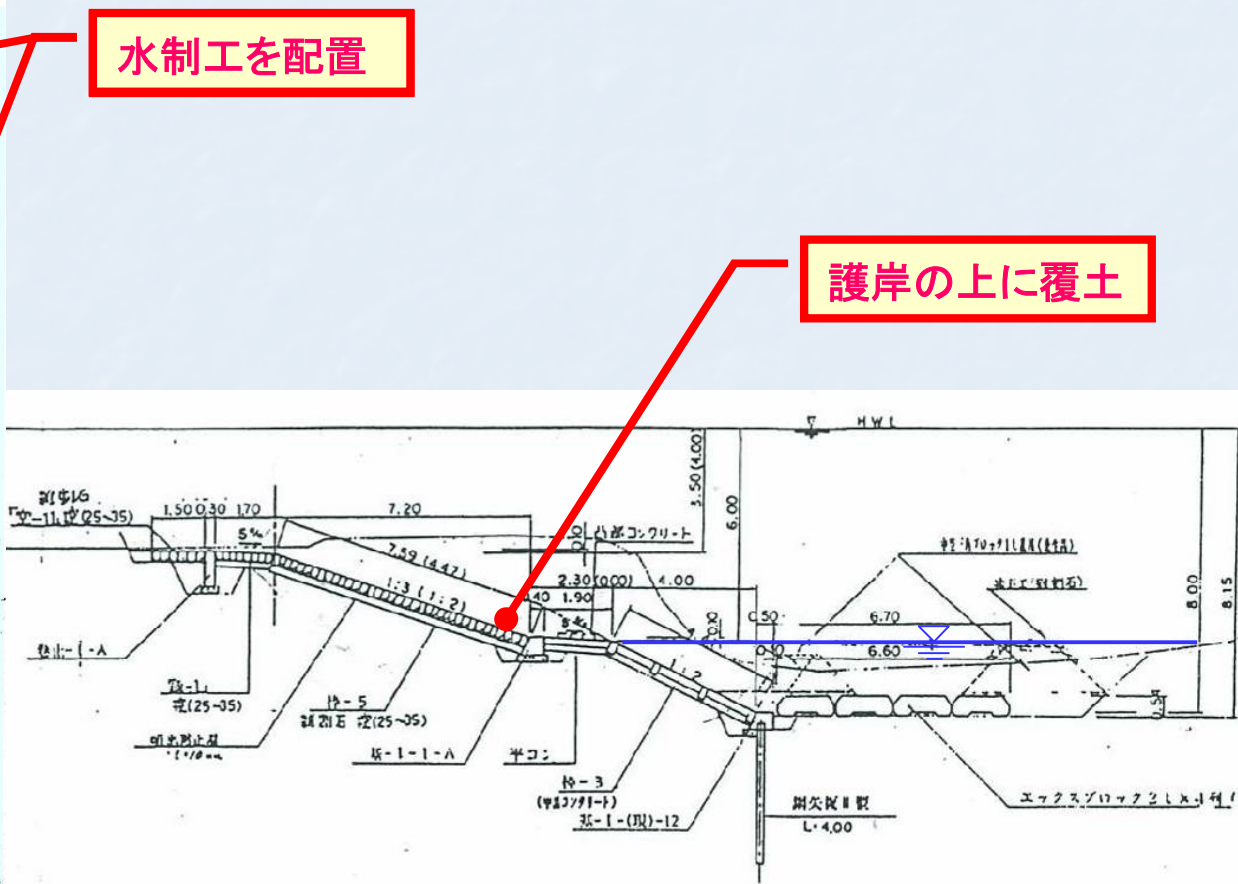
1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 岩坪地区(平成4年度施工)の概要

- ・目的 : 瀬・淵などの河床形態の多様化、魚類の生息環境の形成。
- ・施工内容 : 護岸に覆土し、水制工を配置した。



岩坪地区 平面图



岩坪地区 横断面

1 小矢部川の多自然型川づくり

- 岩坪地区(平成4年度施工)の施工後の変化
 - ・護岸の覆土の流出は無く、出水により土砂が堆積して一時的に植生が荒らされている箇所もあるが、その他の場所は植生が繁茂している。
 - ・水制の所が淵となっているため、コイ・フナが多く生息している。
⇒(評価)水衝部の水制にできる淵が魚類の生息場として機能する。
覆土は河岸法面の植生の回復に効果的である。



施工前(H4.12)



施工直後(H5.3)



施工4年6ヶ月後(H9.10)

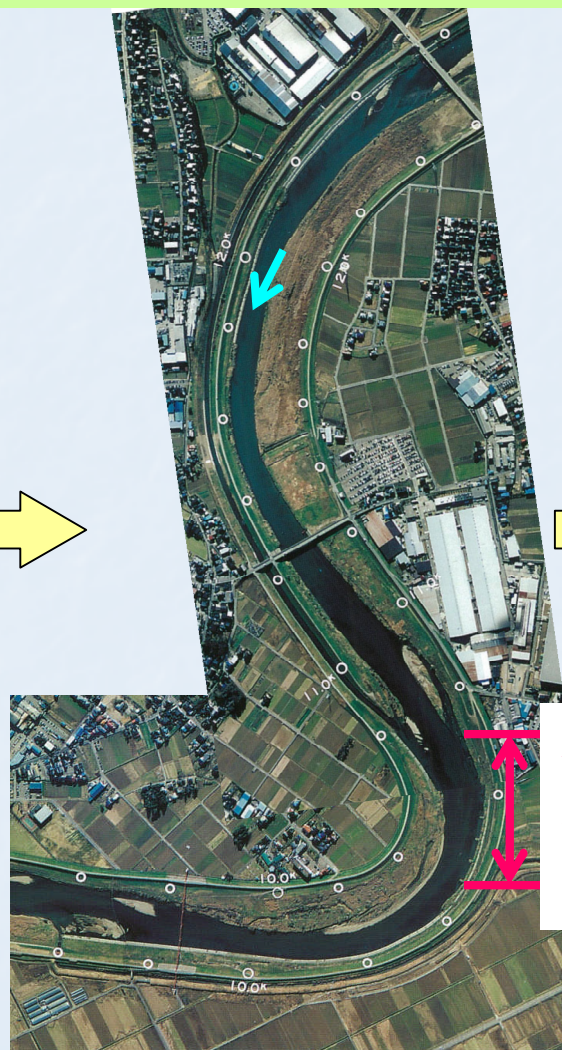
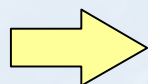
1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 岩坪地区（平成4年度施工）の航空写真の経年変化



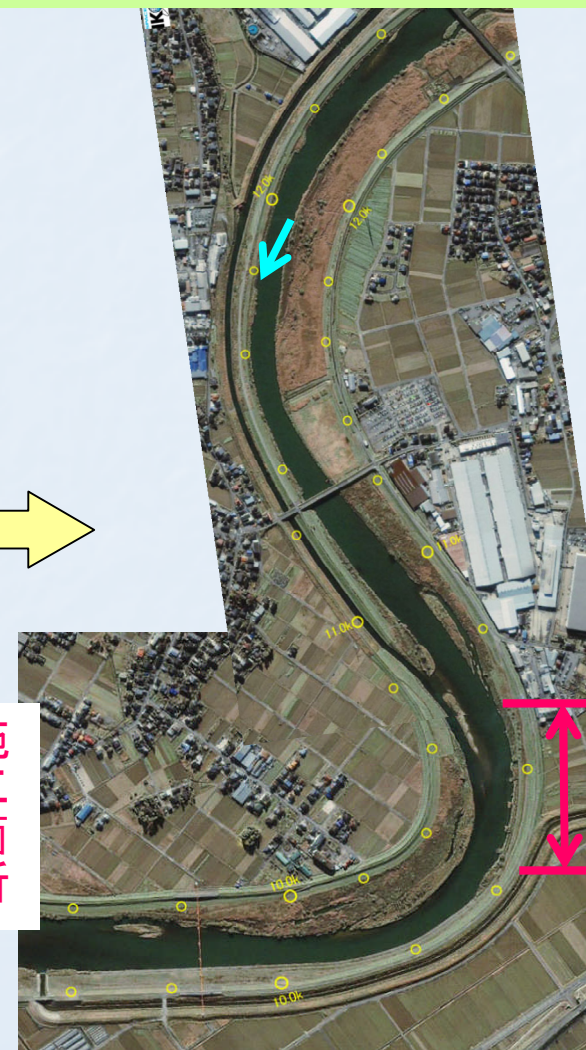
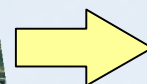
平成3年(1991)

施工前



平成10年(1998)

施工後6年



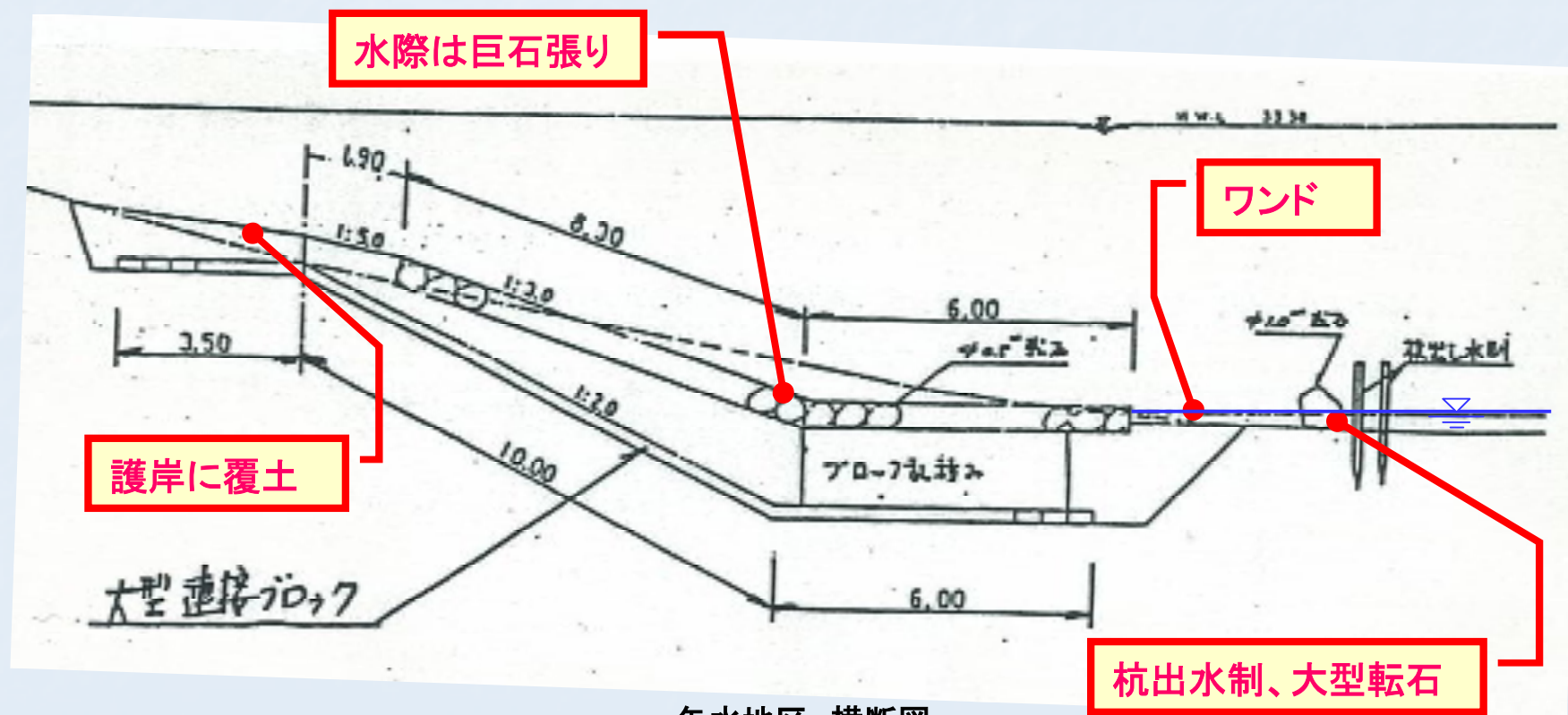
平成17年(2005)

施工後13年

施工箇所

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

- 矢水地区（平成4年度施工）の概要
 - ・目的 : 瀬・淵などの河床形態の多様化。アユの生息環境の形成。
 - ・施工内容 : ワンドや杭出水制、大型転石により魚の休憩箇所を形成し、水際は巨石張りとし、護岸には覆土を行った。



矢水地区 横断面図

1 小矢部川の多自然（型）川づくり

- 矢水地区（平成4年度施工）の施工後の変化
 - ・水際の巨石張の隙間から、植生が繁茂している。
 - ・洪水の度に砂礫堆が増え、流水が対岸側を流れるようになった。



施工前(H4.10)



施工9ヶ月後(H5.11)



施工直後(H5.2)



施工4年8ヶ月後(H9.10)

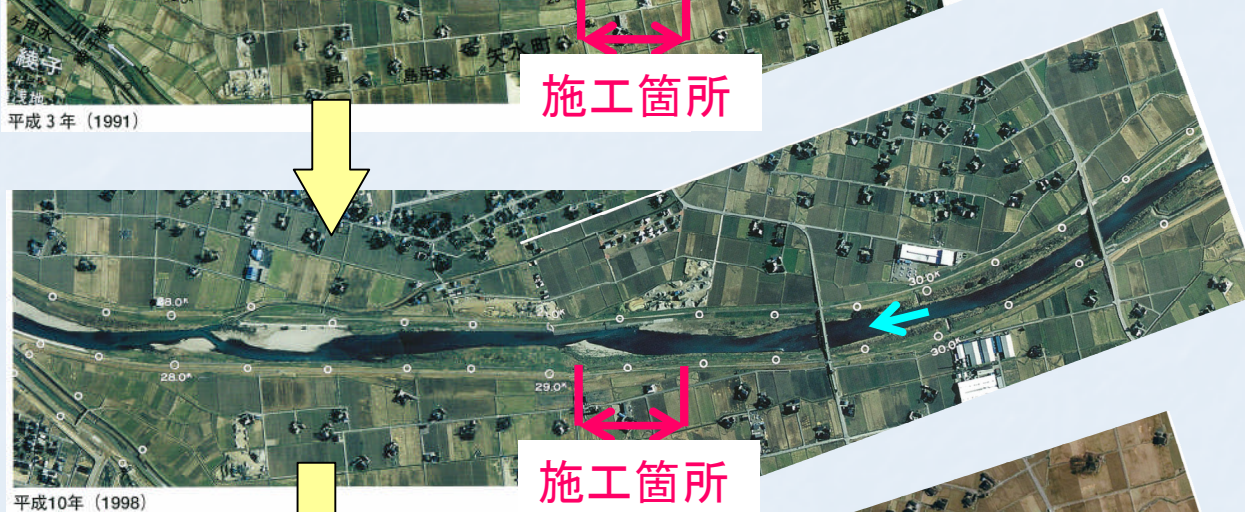
1 小矢部川の多自然（型）川づくり

■ 矢水地区（平成4年度施工）の航空写真の経年変化

施工前



施工後6年



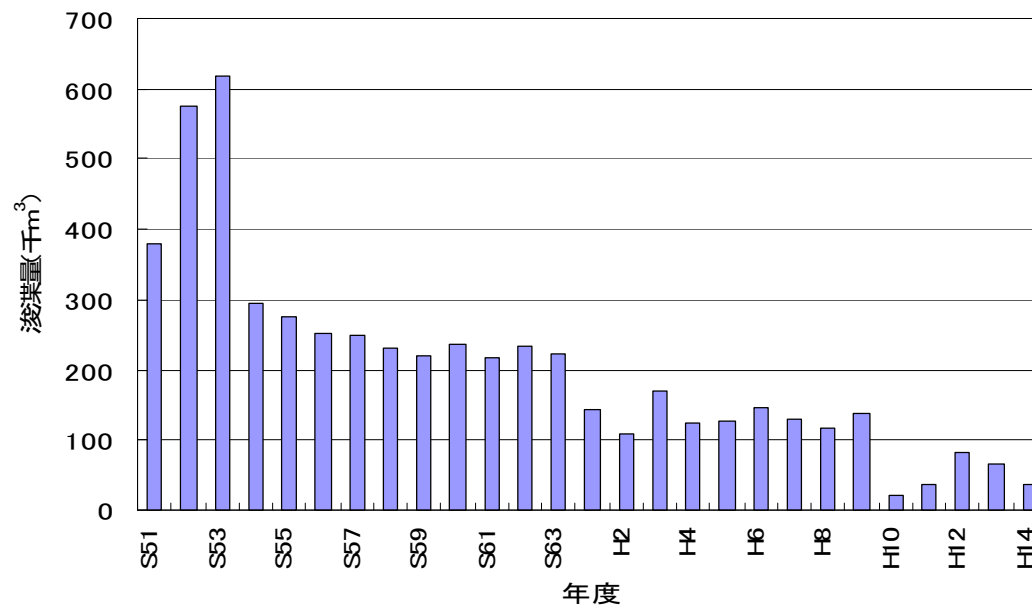
施工後13年



2 河口土砂の掘削量

■ 河口土砂の浚渫量

港湾管理者によって昭和51年から平成14年まで実施されてきた。
0.8km～1.2km付近を中心に年間約200千 m^3 を浚渫していた。



2 河口土砂の掘削量

- 河口付近における河床高の変化
平成14年の浚渫終了後、平成18年、平成20年に測量が実施されている。近年における年最大流量は、平均年最大流量を上回り、洪水時に堆積したものか判断できない状況である。
このため、定期横断測量を細目を実施し、河口の土砂動態における基礎データの収集を行う。

年	年最大流量(長江)	測量実施時期
H14	870	測量実施
H15	725	
H16	901	
H17	957	
H18	910	測量実施
H19		
H20	1,314	測量実施(平成20年7月洪水後)
平均年最大流量	767	

平均年最大流量を上回る

